

# 第2回森林環境教育 映像祭の記録

映像で学ぶ。  
言葉だけでは、

映像で考える。  
伝えられないこともある。

## 参加作品の募集

募集作品：森・林・木や森林ボランティア等に関わる  
人に伝えたい映像作品

募集期間：平成24年4月2日～5月2日

募集部門：短編（15分以内）

長編（30分以内）

行事編（15分以内）

応募資格：団体、個人、プロ、アマを問いません

★入賞作品には賞状と副賞

## 選奨作品上映会&特別講演

日時：平成24年5月24日（木）

上映会&特別講演 13:00～16:15

表彰式 16:45～17:30

会場：東京大学 弥生講堂・一条ホール

入場：無料

主催：森林環境教育映像祭実行委員会 自然・森林教育会

後援：林野庁 公益社団法人 国土緑化推進機構

特別協賛：（一財）日本森林林業振興会 （一社）日本森林技術協会

（公社）大日本山林会 （一財）森林・林業調査研究所 （株）シェルター

すてきナイスグループ（株） 林材業ゼロ災推進中央協議会（事務局・全森連）

日本製紙連合会 日本林政ジャーナリストの会 （社）東京林業土木協会

## 第2回森林環境教育映像祭

### ●参加作品一覧

題目	団体名	時間
1 山と川と海はひとつにつながっているんだね	やまんたろ・かわんたろの会	12分
2 わたしたちの球磨川	やまんたろ・かわんたろの会	8分
3 子どもから大人まで楽しめる樹木観察会	野田の樹木を見て歩こう会有志	12分
4 信州の里山から私たちの環境と生活を考える	信州大学農学部環境委員会	5分
5 緑の少年団の活動と森林教育	木もく倶楽部	15分
6 里地・里山づくり	保々の自然に親しむ会	21分
7 関さんの森ものがたり	大北 寛	30分
8 森に学び 森を楽しむ	NPO法人ひょうご森の倶楽部	24分
9 ポーラス竹炭の作り方	みなみいずたけ炭ひろば代表 山本 剛	33分
10 富士山の森づくり	「富士山の森づくり」推進協議会	19分
11 広げよう環境びとの和・輪・環	NEC CSR・環境推進本部環境推進部	38分

### ●特別講演

#### 『樹上の世界へようこそ』 ～ツリークライミングで森も人も元気に～

講師 ジョン ギャスライト (ツリークライミング® ジャパン代表、中部大学教授、農博)

私の愛するジャイアントセコイアは、昔は北米の広い地域に生息していたが、今ではある一部にしか生息できなくなりました。それでも何千年も生きてきたジャイアントセコイアは堂々と森の王様のように私たち人間に自然の素晴らしさを教えてくれる。



### ●森林映像ライブラリーの開設

今回の映像祭を契機に、新たに森林・林業・林産分野の映像ライブラリー化を図る事とし、「木材・合板博物館」のご協力を得て、入賞作品は今後、同館で随時、視聴できる事となりました。一般に広く利用頂ければ幸いです。

NPO法人 木材・合板博物館 (入館 無料 開館 10:00~17:00 休館日 月・火曜日 祝祭日)  
〒136-8405 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー 3F/4F  
東京メトロ有楽町線、JR京葉線 新木場駅 徒歩7分  
詳しくは、<http://www.woodmuseum.jp>

## 森林環境教育映像祭に寄せる思い（実行委員会）

委員長 宮林茂幸 東京農業大学 教授

委員 伊藤威彦 (財)日本木材総合情報センター 理事長



今回の映像祭で「水や空気はどのようにできるの?」という子供たちの疑問に、木や森の働きを中心に子供の視点で答えてあげる取組みがありました。

近年、「木育」が提唱されていますが、とかく大人目線になりがちで、こうした子供たちの「知りたい」という願いに応えることからスタートする姿勢こそ木育の原点ではないか、とはっとさせられました。

映像祭では、多くの取組みが紹介され、多くの人達の思いが伝わってきました。遠くの人達にも思いが伝えられる、この映像祭を大切にしていきたいと感じた次第です。

委員 今井通子 登山家、医師



森林映像祭は隔年開催で、今回まだ2回。毎年開催の東京国際映像祭は今年26回目、科学技術映像祭は53回目、等と比べれば生れたばかり。しかし育つ資質は満載。今後の継続に期待します。

今回の森林映像祭をきっかけに選奨作品のフィルムライブラリーが創設されることは、素晴らしい一歩だと思います。ですが、今やIT時代ですので、これをベースに、全国の森林公園、森林セラピー基地、自然休養林等とのネットワーク網が築かれれば、更に、森林と人間の身近さや大切さを、より多くの人々の目に触れさせる事が出来ると思います。

委員 岩田茂樹 全国森林組合連合会 常務理事



最近、ビデオ撮影機能のついた携帯電話が普及していますので、個人が手軽に撮影し、パソコンで編集することにより、立派な動画を制作できる時代になりました。インターネット上の動画投稿サイトも多数存在し、ニュース番組でアクセス数の多い動画が紹介されるほど、動画が一般化しています。森林映像祭は、こうした現代社会で、動画の制作や視聴に興味をもつ人々を森林サイドに呼び込むための唯一の窓口であり、今後、さらに発展させる必要があると思います。

委員 茂田和彦 (公社)大日本山林会 常務理事



森林をフィールドとする環境教育の重要性が指摘される中、第2回森林環境教育映像祭が開催されました。今回も、環境NGOから大学、緑の少年団など多岐にわたる皆様方にご参加いただきました。この中で、樹木観察会を主催する市民グループが、シナリオから撮影、編集など文字通り手作りで製作された作品も上映され、印象に残りました。

今後は、第3回開催に向けて、関係者が協力して、本行事の趣旨・目的を幅広く一般市民にPRすることがポイントかと考えます。

委員 清水国明 作家、タレント、NPO法人河口湖自然楽校 校長



山梨県の富士河口湖町で、自然とのふれあいを通じて都市生活で忘れてしまった人間本来の機能を目覚めさせ、子どもたちの「生きる力」を育むことをテーマに、アウトドアパーク「森と湖の楽園」を主宰している。自然を体感する様々なプログラムを提供しているが、そのプログラムの最初に、富士山麓の森の中を散策するネイチャートレッキングを行っている。まずは「森の力」で、都会暮らしで見失ってしまった自然の感性を呼び覚ましてもらうためである。そんな「森の力」を普及啓発する様々な作品に出合う森林映像祭を楽しみにしている。

委員 永田 信 東京大学 教授

委員 萩原 宏 (一財)日本森林林業振興会 副会長



この種のコンテストの成否を判断する最大の要素は応募数だと思う。今回は11作品に止まり、前回は25作品だったことを考えると、成功だったとは言えないだろう。実施したタイミングの問題もあるが、実施に当たり、わが国の動画の森林環境教育映像の制作傾向の把握は必要だったのではないかと。また、PRの点からは発信力のある企業の協賛を得ることも検討すべき手法だったと思う。当振興会主催のフォトコンテスト(世界遺産の森と木フォトコンテスト)は、キヤノンの協賛を得て応募数を大きく増やしている。次なる開催への課題は多い。

委員 蒲沼 満 自然・森林教育会 代表

## 第2回映像祭選奨作品

### 【長編】

#### ●金賞 ポーラス竹炭の作り方

(出品者) みなみいずたけ炭ひろば代表 山本 剛  
☆森林環境教育映像祭実行委員会々長賞  
☆公益社団法人 国土緑化推進機構理事長賞  
◎視聴者(ワンコイン投票)賞

#### ●銀賞 関さんの森ものがたり

(出品者) 大北 寛  
☆森林環境教育映像祭実行委員会々長賞  
☆一般財団法人 日本森林林業振興会々長賞

#### ●銅賞 富士山の森づくり

(出品者) 「富士山の森づくり」推進協議会  
☆森林環境教育映像祭実行委員会々長賞  
☆公益社団法人 大日本山林会々長賞

### ●審査を終えて(審査委員会)

委員長 堀内孝雄 (元) 全国森林インストラクター会々長、農博



第2回映像祭の参加作品は、思ったより少なく11作品でした(第1回は25)。審査委員会では、実行委員会でクリアされた4項目10視点を基準に、入賞作品を総合的に評価、選定しました。長編部門には、いい作品が揃っていました。特に、「ポーラス竹炭の作り方」は、ストレートに今日の森林、農山村問題に取り組んだ熱意が感じられるものでした。いずれの参加作品も、森林や樹木に関わり、森づくり、森林環境教育などに携わる方々の熱心な活動が記録されていて、感心しました。

委員 足本裕子 文化遺産の森づくり有識者会議 理事・事務局長



今回、「記録」としての映像ではなく「活動への思い」がどう表現されているか、に特に注目しました。思いや活動は素敵なのに映像化にも工夫が必要と思われる作品もあり、惜しまれました。ですが、撮影や編集など技術力が評価されるのも事実で、淡々とした映像でもだんだん引き込まれるような作品もあり、入選しました。いろいろの応募作品があり、その内容、効果、映像技術等について、難しいながら、総合的な審査をする事になりました。

委員 中野達夫 HP「木は万能選手」主宰、元信州大学教授、農博



竹林内での簡易な炭化法は、安価に製炭する事が出来、全国的に荒廃が著しい竹林の整理と竹炭の施用による農地の土壌改良と云う二つの効果をもたらす。金賞受賞作は、この竹林内の簡易な炭化法と炭の施用が、懇切丁寧に映像化されていて、理解し易く、時宜に合ったものでした。

私の専門分野からすると、今回は木材利用関連の作品が一つもなく、たいへん寂しい気がしました。森林、林業、林産業の全般にわたり、各分野から参加され、それぞれの新しい取り組み、最新科学、最新技術等の映像を提供出来れば、映像祭は一層面白くなり、「みどり」と市民の溝を埋める事になると思う。

委員 中原保久 全国森林組合連合会 林政担当部長



表現の仕方はいろいろありましたが、各作品とも意欲的な取組を映像化しており、大変感銘を受けました。審査委員という立場ではありましたが、貴重な映像もあり勉強させていただいたという思いです。ただ、撮影や編集技術に大きな差が見られ、もったいないと思われる作品もいくつかありました。また、応募作品が思ったよりも少なく残念ではありましたが、この意義ある催しを継続させるため募集やPRの仕方を検討してみるべきと思った次第です。

## 【短編】

- 金 賞 該当作品なし
- 銀 賞 信州の里山から私たちの環境と生活を考える  
(出品者) 信州大学農学部環境委員会  
☆森林環境教育映像祭実行委員会々長賞  
☆一般社団法人 日本森林技術協会理事長賞
- 銅 賞 子どもから大人まで楽しめる樹木観察  
(出品者) 野田の樹木を見て歩こう会有志  
☆森林環境教育映像祭実行委員会々長賞  
☆一般財団法人 森林・林業調査研究所代表理事賞
- 奨励賞 緑の少年団の活動と森林教育  
(出品者) 木もく倶楽部  
☆森林環境教育映像祭実行委員会々長賞  
☆すてきナイスグループ株式会社々長賞

委員 餅田治之 (財) 林業経済研究所々長、元筑波大学教授、農博



山と川の映像から森づくりまで、子どもの記録から大人まで、それぞれに熱心な取り組み記録が出品され、まさに国民参加の森づくり活動の“今”を映すものでした。

今回の参加作品の中で、保安帽を着用しないで間伐作業に取り組んでいる映像が見受けられました。林業体験にせよ、ボランティア活動にせよ、安全作業を普及・向上させる事、これも映像祭の目的の一つであり、この作品は選外になりました。映像に撮るにせよ、撮らないにせよ、災害防止のため、林内では保安帽着用安全原則は励行して欲しいと思います。

委員 吉村妙子 森林インストラクター、こげさわ調査クラブ世話人



審査対象作品のテーマは森林ボランティア、竹の活用、屋敷林、流域環境など多岐にわたり、「森林環境教育」の多様な切り口の可能性を感じさせられました。

長編作品には、音声や画面が美しく、完成度の高いものが見受けられました。短編では、着眼点は個性的かつ魅力的ながら編集や撮影の拙さから惜しくも入選しなかった作品もあり、再挑戦を期待します。編集・撮影が一定レベルにあれば、テーマに対する作り手の情熱、誠意がものをいうと思いました。

委員 蒲沼 満 自然・森林教育会 代表、技術士



9.11は世界を変えたと云う。3.11は日本を変えたのだろうか。第1回・映像祭は、一カ月足らずの募集期間に25作品の応募があったが、今回は、2カ月近い期間ながら11作品に止まった。特に、震災跡地緑化、国際森林年の「特設部門」への応募はゼロであった。3.11東日本大震災と東電原発災が影響しているのか、または募集方法か、作品仕様の変更(映写時間の半減化、著作権の明確化)か、等検討を要するものとなった。前回は、10時間しても終わらなかった審査会も、今回は委員も増え、時間を掛けて審査、評定する事が出来た。それにしても今回、川下サイドからの参加はなく、川上、川中からはどれも熱の籠った作品の参加であった。

協賛：(財)都市農山漁村交流活性化機構 (NPO)自然体験活動推進機構 (社)全国林業改良普及協会  
(財)日本木材総合情報センター (NPO)木材・合板博物館 (一社)日本樹木医会  
日本林業技士会 全国森林インストラクター会

## ●映像祭スケジュール

### ★映像祭上映会

1. 開会 13:00～
2. 実行委員長挨拶 東京農業大学教授 宮林 茂幸
3. 入賞作品上映&特別講演 (ジョン ギャスライト氏)
4. 視聴者投票 16:15～ (休憩30分)
5. 審査結果と講評 審査委員長 堀内 孝雄
6. 表彰状授与 自然・森林教育会顧問 小澤 普照
7. 特別協賛団体表彰状授与 各団体代表者
8. 受賞者代表から みなみいずたけ炭ひろば代表 山本 剛
9. 視聴者賞の発表・授与
10. 閉会 17:30

### ★映像祭交流会 (参加希望者)

1. 開会 17:40～
2. 主催者挨拶 自然・森林教育会代表 蒲沼 満
3. 乾杯 東京大学教授 永田 信
4. 中締め 全国森林組合連合会常務理事 岩田 茂樹
5. 閉会 19:00

## 第2回・森林環境教育映像祭に当たって

第1回の映像祭から早2カ年が過ぎました。その間に千年に一度という3・11東日本大震災に遭遇し、多くの尊い命や貴重な財産、あるいは先祖代々継承してきたふるさとを一瞬のうちに失いました。ご冥福をお祈りするとともに、一年半を過ぎた今でも、まだ多くの方々が避難生活を余儀なくされています。一刻も早い復旧・復興を祈念致します。

今回の震災以降、先人達からの様々なメッセージが明らかとなりました。三陸海岸線に見られる石碑（此の碑より、下方に家を造る不如何）といったものや波分け神社など、かつての苦難を伝承する先人達の教えといえるものです。つまり、二度と大きな災害を繰り返すまいと、先人達が私たちに残した、生き残るためのメッセージです。

東日本大震災以降、私たちは何をすべきか、何が出来るかを考えるとき、もちろん、国を挙げての一刻も早い復興支援に違いはありませんが、加えて、震災時のデータを可能な限り詳しく後世に残すことではないか。決して風化させてはならない事実だからです。

ここに映像祭の役割がより一層明らかになってきました。今日の森林・林業・山村の実態を映像としてリアルに後世に残すこと。そのことが森林文化や木の文化を継承してきている日本の文化を伝え、残すことに繋がります。

この度は、『木材・合板博物館』関係者のご理解によって、フィルムライブラリーを開設することが出来ました。心から感謝申し上げますとともに、多くの方々が活用されることを期待致します。

最後に、ここに第2回・森林環境教育映像祭が無事幕を降ろすことが出来ましたのは、実行委員、審査委員諸氏をはじめ、多くの特別協賛、協賛団体関係者や事務局WGメンバー各位の賜と心から御礼申し上げます次第です。



実行委員長挨拶

平成24年7月2日

第2回・森林環境教育映像祭実行委員会  
委員長 宮林茂幸  
(東京農業大学教授)

## 森林環境教育映像祭に寄せる ——映像体験の大切さ——

この度、第2回の森林環境教育映像祭が開催されました。  
近年、森林環境持続のためのボランティア活動などが盛んになり、参加者の増加や努力に敬意と期待を抱いている一人です。

その際、森づくりをはじめとする活動体験の積み重ねが効果的であることについては誰も異存のないところでありましょう。

ところで、映像体験の効果につきましては、映像祭の企画段階から期待してはいましたが、過去2回にわたる実行の結果、予期以上のものが得られたと思います。

今回の映像祭では、多彩な映像作品が紹介されましたが、とりわけ、竹林資源の炭化のような、森林関係者の共通の関心事になっていることがらについて、正に目からウロコといえるような手法の提案を映像によって行うなど、他の参加作品を含め、近未来にける森林や環境の持続活動の発展の可能性について明るい展望をもたらす効果があったとの印象を深くしました。

今後、映像祭の積み重ねにより、森林活動の映像ライブラリーが充実し、問題の解決に大きな貢献がなされることを期待して止みません。

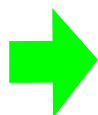


平成24年7月2日 自然・森林教育会顧問 小澤普照  
(元林野庁長官 森林塾代表)

## 映像祭・写真アルバム



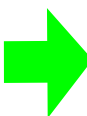
事務局打合せ



作品審査



準備・受付



上映会



ジョン ギャスライト氏の講演



堀内審査委員長講評



小澤顧問長編金賞授与



短編銀賞授与



大日本山林会々長賞授与



国土緑化推進機構理事長賞授与



交流会



看板

## 第2回・映像祭と『森林映像ライブラリー』のスタート

- ☆隔年開催構想でスタートして、あれから早くも2年。関係の方々の心あるご支援、ご協力のもと、第2回・森林環境教育映像祭を開催する事が出来ました。有難うございました。
- ☆この映像祭は、単なる緑のイベントではなく、「国民（市民）と森林・林業を繋ぐ環（鎖）を構築する」という目的の一手段としての位置付けであり、『森林映像ライブラリー』の基礎作りにも寄与する事でした。今回、「木材・合板博物館」のご理解を頂き、ようやくこの環（鎖）が繋がり、新しいスタートになりました。
- 森林映像物は、機器の発達した今日、森、やま、木材等多分野にわたり、個人、団体、会社等多主体で数多く作られ、多くは消えています。今後、この映像祭での選奨作品は、何時でも、誰でも、無料で、前記『木材・合板博物館』で視聴する事が可能になりました。教材にする事も出来ます。「全国の森林施設にもネットで繋いたら」と云う今井通子実行委員の言にも夢が広がります。
- ☆第2回・映像祭の選奨作品「ポーラス竹炭」に、早速の引合いが来ました。西日本の農山村の地域振興策を練っている組織から、是非、地元を持ち込んで参考にしたいと云うものです。竹の侵食に困っているのです。この映像祭の機能発揮のもう一つのスタートです。

2012年7月2日 自然・森林教育会 代表 蒲沼 満  
(森林環境教育映像祭事務局長)



# 映像祭選奨作品一覧

(第2回)

(24. 5. 24)

## 【長編】

- 金賞 ポーラス竹炭の作り方  
(出品者) みなみいずたけ炭ひろば代表 山本 剛
- 銀賞 関さんの森ものがたり  
(出品者) 大北 寛
- 銅賞 富士山の森づくり  
(出品者) 「富士山の森づくり」推進協議会

## 【短編】

- 金賞 該当作品なし
- 銀賞 信州の里山から私たちの環境と生活を考える  
(出品者) 信州大学農学部環境委員会
- 銅賞 子どもから大人まで楽しめる樹木観察  
(出品者) 野田の樹木を見て歩こう会有志
- 奨励賞 緑の少年団の活動と森林教育  
(出品者) 木もく倶楽部

(第1回)

(22. 8. 27)

## 【短編】

- 金賞 「水育」・「水を育てる森を育てる」  
(出品者) サントリービジネスエキスパート株式会社
- 銀賞 森林は身近なエネルギー  
(出品者) NPO法人森のライフスタイル研究所
- 銅賞 豊かな森づくりのための森林ボランティア講座  
(出品者) NPO法人ひょうご森の倶楽部
- 奨励賞 林業の未来を切り開く  
(出品者) 鹿児島大学農学部
- 子どもの森づくり運動  
(出品者) 子どもの森づくり推進ネットワーク

## 【長編】

- 金賞 京都・北山杉を育てる  
(出品者) 財団法人竹中大工道具館
- 銀賞 森林の未来  
(出品者) 社団法人徳島県森林土木協会
- 銅賞 千年の森づくり専門編第2巻 森と生きる  
(出品者) 株式会社紀伊国屋書店
- 奨励賞 木づかいで地球を救え  
(出品者) 大阪木材仲買協同組合
- 緑と森と人の物語  
(出品者) 全国森林インストラクター会

## ●映像祭ワーキンググループ氏名

<五十音順>

阿部 勉	池川 晴男	上原 忠義	浦富 真悟	蒲沼 満
木下 紀喜	山本 一美	山垣 興三	山崎 安久	

# 森林環境教育映像祭の開催を祝う

～森の情報を可視化で巷（ちまた）に、緑豊かな国土をみんなで支え合うために～

## ☆森林環境教育映像への期待

私自身、子ども達に「森と木のことがわかる授業」というものを行っています。実体験の少ない彼らに興味をもってもらうためには、視覚に訴える教材は大きな助けになります。



日々の生活から自然が遠ざかっている現在、森林や木材について、次世代にどのように伝えていくかは大きな課題です。

今後も様々な映像が創られ、森林環境教育に活用されること期待しています。

平成24年7月

林野庁長官

皆川芳嗣

## ☆森林映像祭に寄せる

森の豊かな八甲田山も藻岩山も、その時どきの私の鍛錬の場であり、エベレストをはじめ世界の山々に登り滑ってきた。



地球の陸地の約3割を占める森林は、産物供給の場であり、文化の場であり、科学の場であり、なお多くの未知なるものを秘めた場である。森林映像祭は、スタートして2回目と云うが、森のドラマ、森の未知なるものをより多くの方々に提供して欲しいと思う。

平成24年7月

全国森林レクリエーション協会会長 三浦 雄一郎

## ●特別協賛（寄付）団体

### ☆市民と森林との懸け橋を目指す 総合アドバイザー

（一般財団法人）日本森林林業振興会  
会長 木平 勇吉

### ☆森林・林業技術の調査研究と 人材育成の総合コンサルタント

（一般社団法人）日本森林技術協会  
理事長 加藤 鐵夫

### ☆森林・林業情報の総合的な把握に 「山林」誌を

（公益社団法人）大日本山林会  
会長 箕輪 光博

### ☆森林、自然、安全に係る 環境型社会の形成に貢献

（一般財団法人）森林・林業調査研究所  
代表理事 佐々木 勲

### ☆素適な家づくりから森づくりまで すてきナイスグループ株式会社

代表取締役社長 日暮 清

### ☆林業、木材産業の発展で 山村地域の活性化に向けて

全国森林組合連合会（林材業ゼロ災推進中央協議会事務局） 代表理事会長 佐藤 重芳

### ☆森を守る。森をつくる。 紙は森からのおくりもの。

日本製紙連合会  
会長 芳賀 義雄

### ☆森林、山村情報を広く市民に

日本林政ジャーナリストの会  
会長 上松 寛茂

### ☆災害防止と国土保全に弛まぬ努力を

（社団法人）東京林業土木協会  
会長 小野 徹

### ☆KES構法～木造住宅づくりを 通じて都市（まち）に森を作る

（株）シェルター 代表取締役 木村 一義

### ☆緑の募金で防ごう地球温暖化

（公益社団法人）国土緑化推進機構  
理事長 佐々木 毅

### ☆森、木、山、村の情報を可視化で巷に

森林環境教育映像祭実行委員会  
委員長 宮林 茂幸

第2回森林映像祭選奨作品は、『木材・合板博物館』（無料）で視聴する事が出来ます。